

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果のお知らせ
大月市内小中学校の状況について

大月市教育委員会

4月18日に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。この調査は小学校6年生と中学校3年生の国語と算数・数学のそれぞれ基礎的な知識を問うA問題、活用力を問うB問題及び学習状況が対象でした。

大月市教育委員会ではその調査結果を分析しましたのでお知らせします。また市内各校では、自校の結果を分析し、指導方法の改善等を行っています。更に調査を受けた児童生徒とその保護者の皆様には、個々の良いところや課題点、努力点等を説明し、今後の学力向上に向けて家庭との連携を図るように努めています。



1. 大月市の子どもたち（小学校6年生・中学校3年生）の学力状況について

		市内小学校の平均正答率	市内中学校の平均正答率
国語	A【主として知識】	県とほぼ同等	県とほぼ同等
	B【主として活用】	県とほぼ同等	県とほぼ同等
算数 数学	A【主として知識】	県とほぼ同等	県とほぼ同等
	B【主として活用】	県とほぼ同等	県とほぼ同等

※ 「県平均とほぼ同等」という根拠 …… 文部科学省では、平均正答率との差±5%を微差とし、「±5%は、ほぼ同等を意味する」としているのので、それに従って表記しています。

小学校6年生の国語の調査は「話す・聞く」「書く」「読む」「伝統的な言語文化と国語の特質」の4領域に分かれています。県平均正答率と比較すると、「話す・聞く」「書く」「読む」は県とほぼ同等で、国語A「伝統的な言語文化」が少し低くなっています。算数の調査は「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域に分かれています。算数A「図形」は県平均を上回っていますが、算数A「量と測定」が少し低くなっています。

中学校3年生の国語の調査は小学校と同様に「話す・聞く」「書く」「読む」「伝統的な言語文化と国語の特質」の4領域に分かれています。県平均正答率と比較すると、国語A「話す・聞く」、国語B「書く」「伝統的な言語文化」が少し低くなっています。数学の調査は「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の4領域に分かれています。各領域とも県とほぼ同等となっています。

無解答に関しては以下の通りです。

			総問題数	無解答者がいた 問題数	無解答者がいた問題数	
					選択・短答式の問題	記述式の問題
小 学 校	国 語	A	15	13	15問中 13問	
		B	9	9	6問中 6問	3問中 3問
	算 数	A	15	11	15問中 11問	
		B	11	11	6問中 6問	5問中 5問

中 学 校	国 語	A	32	23	32問中 23問	
		B	9	4	6問中 1問	3問中 3問
	数 学	A	36	29	36問中 29問	
		B	15	13	10問中 8問	5問中 5問
合 計			142	113	126問中 97問	16問中 16問

国語、算数・数学ともすべての記述式の問題に無回答者がいて、それぞれの無回答率が高いことから、市内の小学校6年生と中学校3年生は、引き続き、記述式解答に苦手傾向があるとうかがえます。（これは県内・全国的にも同様の傾向です）

子どもたちの学習に対する意識調査を見ると、本市の小学校6年生の90.4%、中学校3年生の89.3%が、今まで受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと回答していますが、学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思っている人の割合が、小学校6年生の55.1%、中学校3年生の59.5%となっています。子どもたちの中に「必要な情報を集める」「目的や意図に応じて内容を整理する」「理由を明確にして説明する」等々の力を高めていくことが求められています。

また、文部科学省の分析によると、「新聞を読む頻度が高い子どもの方が、平均正答率が高い」という結果が報告されました。本市の子どもたちは、新聞をほとんど、または全く読んでいない小学校6年生が50.0%、中学校3年生が67.4%でした。また、「地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある」の問いに、小学校6年生の34.0%、中学校3年生の31.4%が、否定的な回答をしています。これだけで

判断するわけにはいきませんが、日常的に、情報をつかみ、内容を整理し、それを何らかの形で表現する力や習慣を身につけることが必要と思われます。



さらに、今回小中学校で差が大きかった「伝統的な言語文化と国語の特質」に関わっては、代表的な俳句やことわざ、古文等に触れることや、手紙や招待状等の形式を理解することが大切と思われます。文字離れが進んでいる現在の社会において、語彙を増やしたり、理解を深めたりするために、「読む」ことや「書く」機会を増やすことが有効です。また、各学校で取り組んでいる「話し合い活動を通じた学び合い」をさらに充実させ、自分の考えを説明したり文章に書いたりする力を高めることが求められています。

2. 大月市の子どもたち（小学校6年生・中学校3年生）の生活状況について

（1）朝食を毎日食べているか

毎日食べている	小 学 校	134人	85.9%	中 学 校	136人	77.7%
食べる日が多い		16人	10.3%		21人	12.0%
食べない日もかなりある		6人	3.8%		13人	7.4%
食べていない		0人	0%		5人	2.9%
合計		156人			175人	

(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ているか

毎日同じ時刻に寝ている	小学校	51人	32.7%	中学校	40人	22.9%
同じ時刻に寝ていることが多い		79人	50.6%		86人	49.1%
あまり同じ時刻ではない		21人	13.5%		41人	23.4%
同じ時刻ではない		5人	3.2%		8人	4.6%
合計		156人			175人	

(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きているか

毎日同じ時刻に起きている	小学校	96人	61.5%	中学校	91人	52.0%
同じ時刻に起きていることが多い		51人	32.7%		69人	39.4%
あまり同じ時刻ではない		7人	4.5%		14人	8.0%
同じ時刻ではない		2人	1.3%		1人	0.6%
合計		156人			175人	



「朝食」「就寝時刻」「起床時刻」について、市内小学校6年生と中学校3年生は、ほぼ生活リズムが確立され、良好な状況といえると思います。この傾向は、この調査ではずっと継続しており、本市の良さだと確信しており、崩れないことを願っています。特に小学校6年生と中学校3年生の約9割が朝食を食べていますので、全体的に活力ある学校生活が送れていると思います。就寝時刻については不規則な様子もうかがえますが、成長期の子どもたちですので、十分で良質な睡眠が確保され、規則正しい生活が送れることを望んでいます。

(4) ものごとを最後までやり遂げて、嬉しかったことがあるか

当てはまる	小学校	116人	74.4%	中学校	134人	76.6%
どちらかといえば当てはまる		36人	23.1%		35人	20.0%
どちらかといえば当てはまらない		2人	1.3%		5人	2.9%
当てはまらない		2人	1.3%		1人	0.6%
合計		156人			175人	

(5) 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦するか

挑戦する	小学校	53人	34.0%	中学校	43人	24.6%
どちらかといえば挑戦する		82人	52.6%		90人	51.4%
あまり挑戦しない		18人	11.5%		38人	21.7%
挑戦しない		3人	1.9%		4人	2.3%
合計		156人			175人	

(6) 自分には、よいところがあると思うか

ある	小学校	49人	31.4%	中学校	47人	26.9%
どちらかといえばある		68人	43.6%		74人	42.3%
あまりない		31人	19.9%		33人	18.9%
ない		8人	5.1%		21人	12.0%
合計		156人			175人	

(4)の表から、子どもたちが大きく成長するために必要な「成功体験」をしっかり積んでいることがうかがえます。しかし(5)や(6)の表からは、「成功体験」が「課題への挑戦」や「自己肯定感」を高めるということに十分につながり切れていないと見ることができます。せっかくの貴重な成功体験を自己財産とし大きく成長するためには、子ども自身が積極的・継続的に物事に挑戦し、そして周囲にいる大人たちの評価・称賛等々によって、成功体験を確実に積み重ねていくことが自信につながっていくと思います。



(7) 学校の規則を守っていますか

守っている	小学校	68人	43.6%	中学校	113人	64.6%
どちらかといえば守っている		78人	50.0%		61人	34.9%
あまり守っていない		6人	3.8%		1人	0.6%
守っていない		4人	2.6%		0人	0%
合計		156人			175人	

(8) いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか

いけない	小学校	131人	84.0%	中学校	142人	81.1%
どちらかといえばいけない		21人	13.5%		24人	13.7%
どちらかというとなんかではない		4人	2.6%		5人	2.9%
そんなことはない		0人	0%		4人	2.3%
合計		156人			175人	

(9) 人が困っている時は、進んで助けますか

進んで助ける	小学校	56人	35.9%	中学校	77人	44.0%
どちらかといえば助ける		78人	50.0%		80人	45.7%
あまり助けない		20人	12.8%		15人	8.6%
助けない		2人	1.3%		3人	1.7%
合計		156人			175人	

(10) 人の役に立つ人間になりたいか

そう思う	小学校	104人	66.7%	中学校	125人	71.4%
どちらかといえばそう思う		42人	26.9%		44人	25.1%
あまりそうは思わない		8人	5.1%		6人	3.4%
そうは思わない		2人	1.3%		0人	0%
合計		156人			175人	

公共性という側面でも、本市の子どもたちは良好な傾向を示しています。特に「学校の規則を守っていない」という中学校3年生が「0人」であり、「いじめ」への意識では、昨年度に続き90%以上が望ましい傾向を示しています。これは、これまでの学校・家庭・地域の意図的・計画的な指導ばかりでなく、日常のあらゆる場所であらゆる機会をとらえて、あらゆる人々が、あらゆる形で指導してきた成果だと確信しています。

さらに、8割以上の小学校6年生と中学校3年生が、「困っている人を進んで助ける」「誰かの役に立ちたい」と答えていることは素晴らしいことです。これからの社会においては、個々の存在を認め合い、支え合うと同時に、周囲と良好な人間関係を構築することが求められています。回答から受け取れる前向きな意識を、具体的な「行動」に結びつけることができるように、日頃から「私はこう思う、こうしたい」という主体的な意識や姿勢を培うことが期待されます。



(11) 月～金曜日の1日の勉強時間（塾・家庭教師を含む）

しない	小学校	2人	1.3%	中学校	3人	1.7%
30分以下		13人	8.3%		9人	5.1%
30分～1時間		47人	30.1%		36人	20.6%
1時間～2時間		61人	39.1%		47人	26.9%
2時間～3時間		26人	16.7%		43人	24.6%
3時間以上		7人	4.5%		37人	21.1%
合計		156人			175人	

(12) 土・日曜日や祝日等の1日の勉強時間（塾・家庭教師を含む）

しない	小学校	15人	9.6%	中学校	7人	4.0%
1時間以下		61人	39.1%		36人	20.6%
1時間～2時間		51人	32.7%		45人	25.7%
2時間～3時間		22人	14.1%		39人	22.3%
3時間～4時間		3人	1.9%		30人	17.1%
4時間以上		4人	2.6%		18人	10.3%
合計		156人			175人	

(13) 家で宿題をしているか

している	小学校	142人	91.0%	中学校	106人	60.6%
どちらかといえばしている		9人	5.8%		53人	30.3%
あまりしていない		3人	1.9%		14人	8.0%
全くしていない		2人	1.3%		2人	1.1%
合計		156人			175人	

(14) 家で計画的に学習しているか

計画的にしている	小学校	56人	35.9%	中学校	43人	24.6%
どちらかといえば計画的		60人	38.5%		58人	33.1%
あまり計画的でない		27人	17.3%		62人	35.4%
全く計画的でない		13人	8.3%		11人	6.3%
無回答					1人	0.6%
合計		156人			175人	

(15) 家で復習をするか

している	小 学 校	48人	30.8%	中 学 校	49人	28.0%
どちらかといえばしている		53人	34.0%		71人	40.6%
あまりしていない		35人	22.4%		44人	25.1%
全くしていない		19人	12.2%		11人	6.3%
その他		1人	0.6%			
合計		156人			175人	

月～金曜日の1日の勉強時間では、小学校6年生は県同様に「1時間～2時間」の勉強時間が最も多く、「2時間～3時間」の勉強時間が県平均より多くなっています。中学校3年生は県同様に「1時間～2時間」の勉強時間が最も多く、「2時間～3時間」「3時間以上」の勉強時間が県平均より多くなっています。



土・日曜日や祝日等の勉強時間は、小学校6年生は「1時間以下」が最も多く、県平均は「1時間～2時間」が最も多くなっています。中学校3年生は県同様に「1時間～2時間」が最も多く、「3時間～4時間」「4時間以上」の勉強時間が県平均より多くなっています。特に中学3年生の勉強時間は、平日・休日共に増えています。

また「家で宿題をしているか」は、県同様に90%以上が肯定的な回答をしています。「計画的に学習しているか」は、小学校6年生の74.4%、中学校3年生の57.7%が肯定的な回答で、ともに県平均より多くなっています。「家で復習をす

るか」も、小学校6年生、中学校3年生ともに県平均より良い傾向となっています。子どもたちの学力を定着させるために「復習」は大きな役割を果たしていると言われていいますので、この良好な状況を継続させたいと思います。このように小学校6年生、中学校3年生の家庭における勉強時間は全体的に改善しています。これは、各学校を中心に本市で取り組んでいる「家庭学習の推進」の成果といえます。

(16) 月～金曜日の1日のテレビ・ビデオ・DVD等の視聴時間

4時間以上	小 学 校	16人	10.3%	中 学 校	28人	16.0%
3時間～4時間		25人	16.0%		32人	18.3%
2時間～3時間		42人	26.9%		35人	20.0%
1時間～2時間		46人	29.5%		53人	30.3%
1時間以下		25人	16.0%		25人	14.3%
しない		1人	0.6%		2人	1.1%
その他		1人	0.6%			
合計		156人			175人	

(17) 月～金曜日の1日のテレビゲーム（コンピューターゲーム等）のプレイ時間

4時間以上	小 学 校	10人	6.4%	中 学 校	20人	11.4%
3時間～4時間		6人	3.8%		23人	13.1%
2時間～3時間		26人	16.7%		30人	17.1%
1時間～2時間		56人	35.9%		46人	26.3%
1時間以下		35人	22.4%		33人	18.9%
しない		23人	14.7%		23人	13.1%
合 計		156人			175人	

(18) 月～金曜日の1日の携帯電話やスマートフォンで通話やメール・インターネットの使用時間

4時間以上	小 学 校	4人	2.6%	中 学 校	20人	11.4%
3時間～4時間		7人	4.5%		17人	9.7%
2時間～3時間		6人	3.8%		28人	16.0%
1時間～2時間		25人	16.0%		36人	20.6%
1時間以下		23人	14.7%		29人	16.6%
30分以下		46人	29.5%		27人	15.4%
持っていない		44人	28.2%		18人	10.3%
合 計		156人			175人	

月～金曜日の1日あたりの「テレビ・ビデオ・DVD等の視聴時間」、「テレビゲーム（コンピューターゲーム等）のプレイ時間」、「携帯電話やスマートフォンで通話やメール・インターネットの使用時間」について、小学校6年生は「3時間以上」が県平均より少なかったですが、中学3年生はどの項目も「3時間以上」が県平均より多くなっています。重要なことは、県との比較でなく、家での学習時間をより多く設定できる状況かどうかです。同じ子どもがこれだけの時間を費やしているとは思いませんが、これらに時間を取られていることは事実です。1日の中でこれだけの多くの時間を費やしてしまえば、やはり学習時間が削られてしまいます。家庭生活を計画的に過ごすために、携帯電話やスマートフォン等の情報機器の用途や使用時間について、各家庭のルールを再確認するなど、活用方法の工夫が求められています。



3. 今後の取組のために

今年も、大月市の児童生徒の生活習慣や学習環境は、ほぼ良好な状況にあります。それは県や全国と比較しても同様です。

前述の通り、中学校3年生の40%以上が月～金曜日の1日あたり「3時間以上」勉強していることは大幅に改善されたといえますが、一方では20%以上が「テレビ・ビデオ・DVD等の視聴時間」、「テレビゲーム（コンピューターゲーム等）のプレイ時間」、「携帯電話やスマートフォンで通話やメール・インターネットの使用時間」に、1日あたり「3時間以上」も費やしている実態もあります。家庭での生活時間の活用方法をさらに見直す必要があります。

また、「新聞を読まない」、「地域や社会で起こっている問題や出来事にあまり関心がない」、と回答した児童生徒が多いことも課題の1つに挙げられます。学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思っている人の割合が多くなっていることから、日常的に、情報を

つかみ、内容を整理し、それを何らかの形で表現する力や習慣を身につけていくことが求められています。

各校では、家庭学習の充実を図るために、「家庭学習システム」を決めたり、「生活記録表」「家庭学習の手引き」や「家庭学習チェックシート」を活用したり、各自が自分の能力に合わせて家庭学習が行え、学年が進行するにしたがって自主的な学習に移行できるように工夫したり、「自学ノート」に取り組みせたりしています。さらに、本市では今年度より教育活動の支援の1つとして「チャレンジ大月っ子」の取組を進めています。「家庭学習」に取り組むと同時に「家事労働」に取り組むことで、生きた知識を学ぶことができることを期待しています。是非、各ご家庭でも学校の取組にご協力ください。

本市の小学校6年生と中学校3年生は、引き続き、記述式解答に苦手傾向があります。（これは県内・全国的にも同様の傾向です）各校ともに、学習の系統性を考え、より上学年への学習内容のつながりを意識したり、子どもが主体的に考え、話し合うことを中心に据え自力解決の時間を確保したり、ペア学習や小グループでの話し合いを重視したり、課題解決学習をより多く取り入れたり等々の授業改善を行っています。また「朝学習」として基礎的・基本的内容を繰り返し学習する（読書の時間等も含まれている）時間を設定しています。

その他「自分の考えを持ちながら、友達と伝え合い・話し合う場面の設定」「授業中の言語活動場面」「読書活動」「辞書の活用」等については、各校独自の取組がありますので、それを見ていただきたいと思えます。各校が自ら策定した指導方法改善策に基づき、子ども一人一人を大切に、きめ細かな指導を実現しようとしています。



今年度も夏休みを利用した学習支援（基礎学力の定着と学習意欲の向上）として「大月サマースクール」を実施しました。多くの子どもたちが、学力向上に向け真剣に、意欲的に学習する姿が見られました。また、今年度から「大月っ子楽習サロン」を実施し、日頃の学習課題に対応する取組が始められています。これらの取組を通して、家庭学習の確立と充実に向けて、学校を通して啓発を続けていくとともに、学力向上を継続推進し、学

ぶ楽しさや分かる喜びを味わうことができる子どもたちの底辺を広げていきたいと考えています。

市教育委員会としても学校で、家庭で、子どもたちが持っている良さを積極的に発揮し、「自ら見て、考え、語り合い、行動できる」人に成長していけるように支援を行っていきます。

これからも、子どもたちのよりよい成長のために、保護者及び地域住民の皆様にご支援をいただいておりますようお願い申し上げます。